

# 羽咋市上水道アセットマネジメント報告書

## 【 概 要 版 】

令和 8 年度～令和 47 年度

羽咋市 上下水道課

令和 8 年 3 月

## 1. 業務の目的と背景

**目的：**羽咋市の水道施設の状態を把握し、将来にわたって機能を維持するための効率的・計画的な更新投資計画（アセットマネジメント計画）を策定すること。

### 背景

- ・高度経済成長期に整備された施設の老朽化が進行し、今後は大規模な更新が必要となる。
- ・人口減少や節水意識の高まりによる料金収入の減少が見込まれ、更新資金の確保が厳しくなっている。

**期待される効果：**更新需要の可視化、投資の平準化、財源確保策の具体化、および利用者への説明責任の遂行。

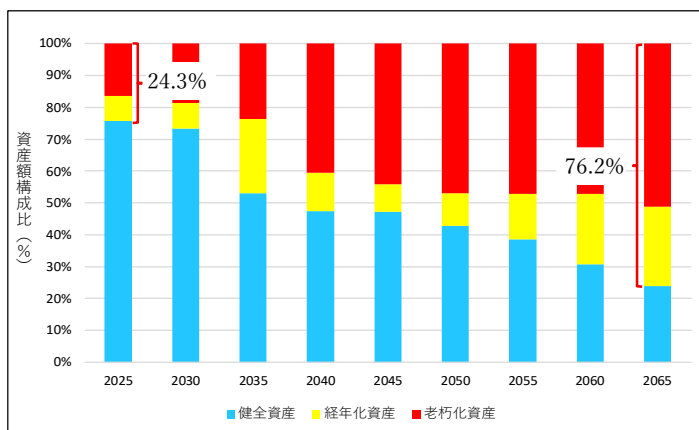
## 2. 資産の現状と健全度評価（更新しない場合）

現状の資産（構造物・設備・管路）を更新せずに使い続けた場合のシミュレーション結果です。

### (1) 構造物及び設備

**2025年度時点：**法定耐用年数を超過している資産は **24.3%**。

**2065年度時点：**老朽化が進み、超過資産は **76.2%** まで拡大する。

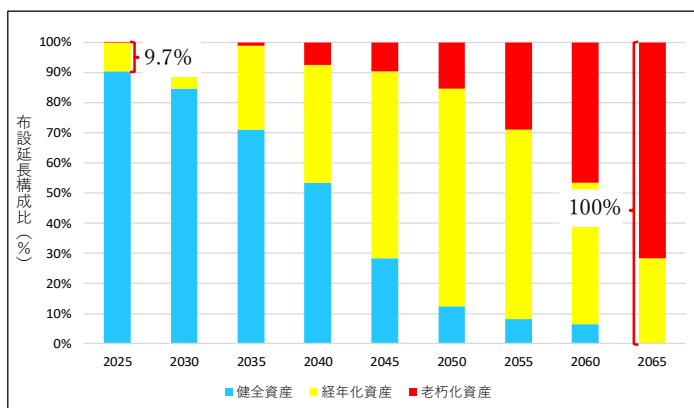


| 健全度区分 | 説明                           |
|-------|------------------------------|
| 健全資産  | 経過年数が法定耐用年数以内の資産             |
| 経年化資産 | 経過年数が法定耐用年数の1.0を越え、1.5倍以内の資産 |
| 老朽化資産 | 経過年数が法定耐用年数の1.5倍を超える資産       |

### (2) 管路（総延長 271.8km）

**2025年度時点：**法定耐用年数を超過している資産は **9.7%**。

**2065年度時点：**全ての管路が法定耐用年数を経過し **100%** となる。



| 健全度区分 | 説明                           |
|-------|------------------------------|
| 健全資産  | 経過年数が法定耐用年数以内の資産             |
| 経年化資産 | 経過年数が法定耐用年数の1.0を越え、1.5倍以内の資産 |
| 老朽化資産 | 経過年数が法定耐用年数の1.5倍を超える資産       |

### 3. 更新需要の推計と最適化

単なる「法定耐用年数」ではなく、実態に即した「更新基準（実使用年数）」を設定することで、コスト抑制を図ります。

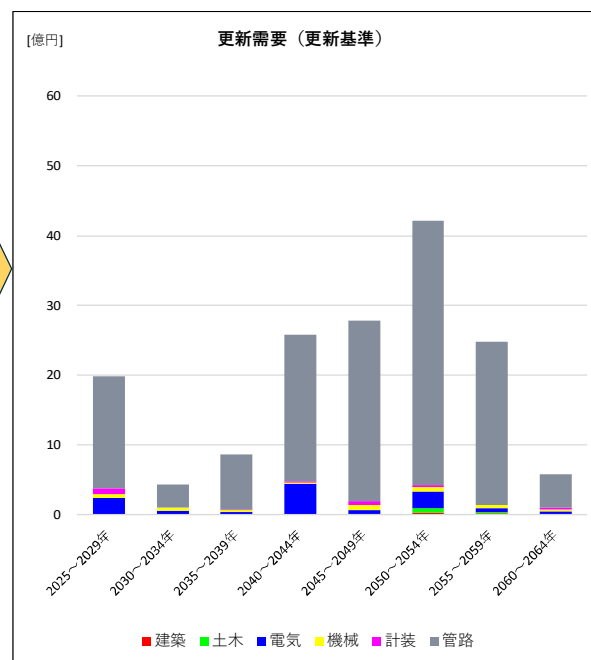
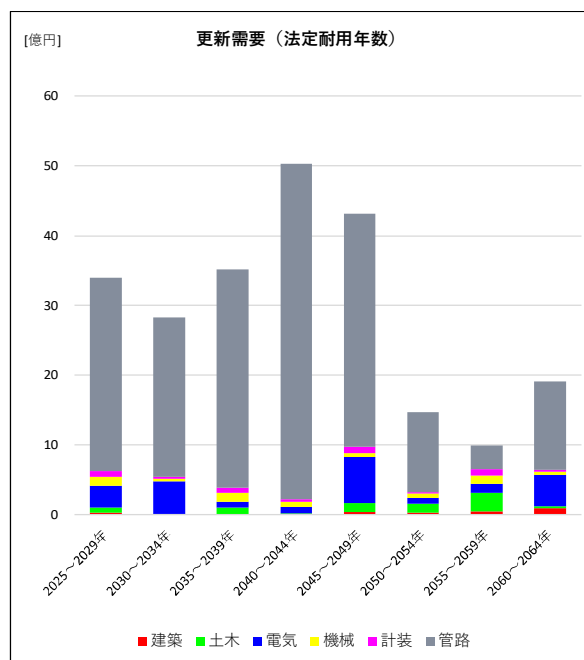
#### (1) 更新基準の設定

| 工種 | 法定耐用年数 | 更新基準（実耐用年数）※採用 | 備考         |
|----|--------|----------------|------------|
| 建築 | 60     | 70             |            |
| 土木 | 60     | 73             |            |
| 電気 | 20     | 24             |            |
| 機械 | 17     | 24             |            |
| 計装 | 10     | 20             |            |
| 管路 | 40     | 40~100         | 管種、防食対策による |

※各研究会による更新基準

#### (2) 更新需要の比較（40年間の総額）

| 項目     | 法定耐用年数での更新 | 更新基準（実使用年数）での更新       |
|--------|------------|-----------------------|
| 更新需要総額 | 234.7 億円   | 159.3 億円              |
| 年平均額   | 5.9 億円     | 4.0 億円                |
| 削減効果   | —          | 75.4 億円（年平均 1.9 億円削減） |



#### 4. 財政シミュレーション（将来見通し）

将来の更新需要に対し、現行料金で対応可能かを検証し、必要な対策を検討しました。

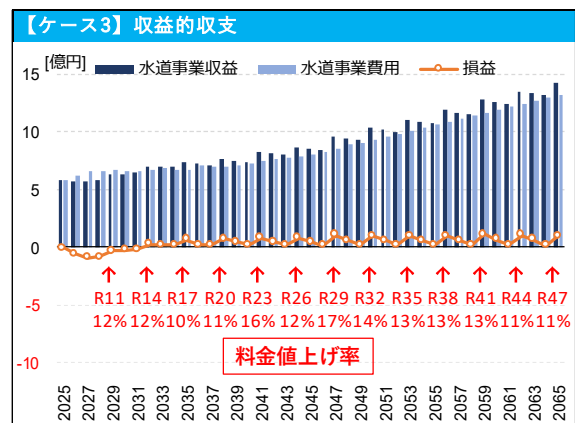
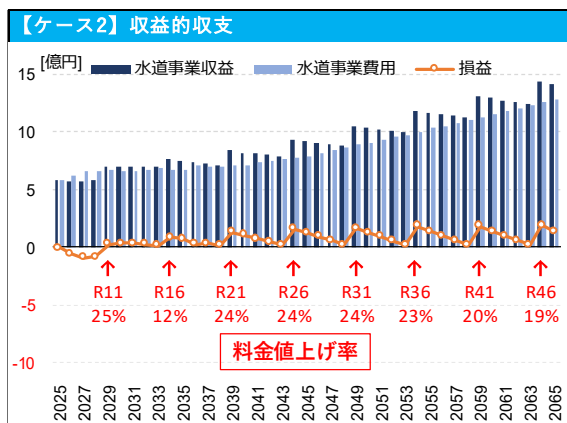
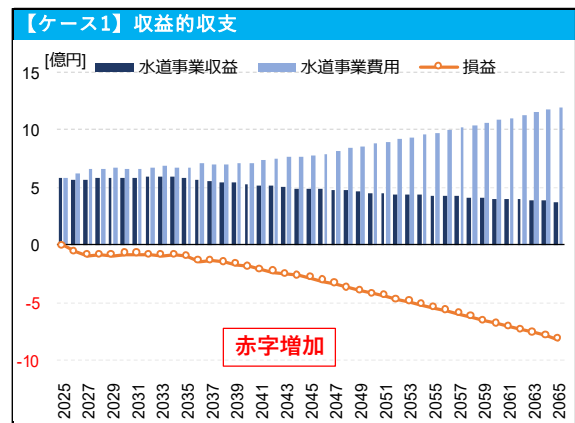
##### (1) ケース別シミュレーション結果

| ケース             | 内容   | 判定・結果  |
|-----------------|--|--|
| 現状維持<br>(ケース 1) | 料金を据え置いた場合   | <b>事業継続困難。</b><br>2037 年度に資金が底をつく。                               |
| 財源確保<br>(ケース 2) | 料金回収率 100%を目指し、<br>5 年のペースで料金値上げ<br>給水収益 1 年分の資金残確保              | 2029 年度に <b>25%</b> の大幅値上げが<br>必要となり、急激な負担増加が懸念<br>される。          |
| 財源確保<br>(ケース 3) | 2 度の料金改定で<br>料金回収率 100%を目指し、<br>3 年のペースで料金値上げ<br>給水収益 1 年分の資金残確保 | 2029 年度、2032 年にそれぞれ<br><b>12%の値上げ</b> が必要となり、断続的<br>な負担増加が懸念される。 |

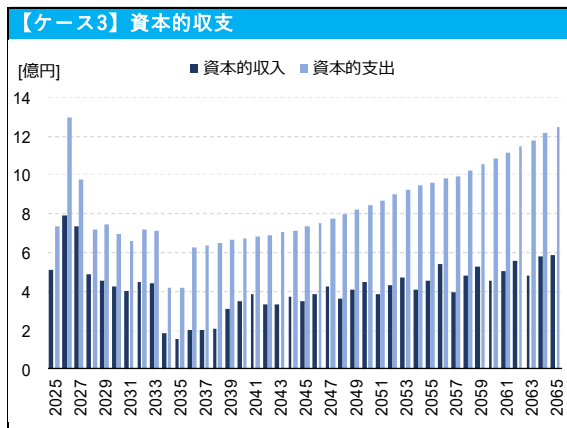
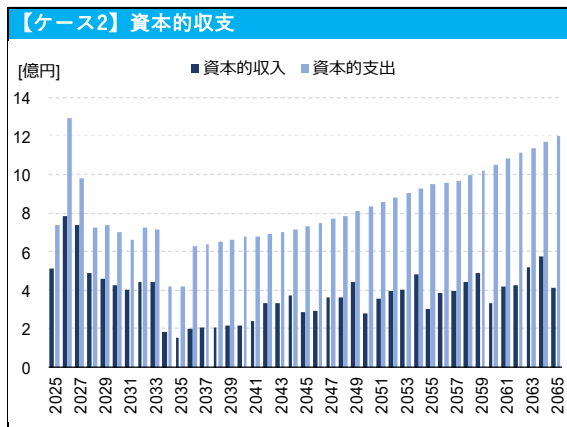
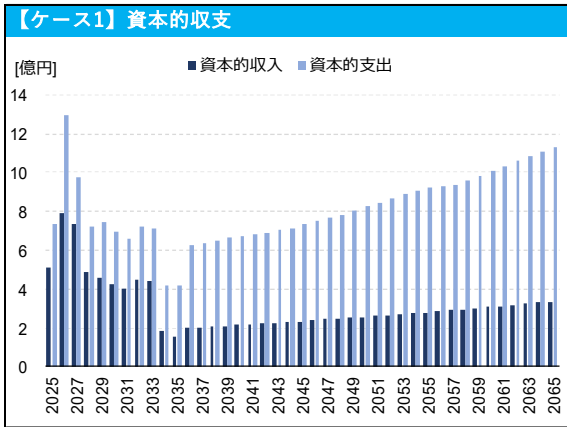
##### (2) ケース 2・ケース 3 の推移

###### ①収益的収支

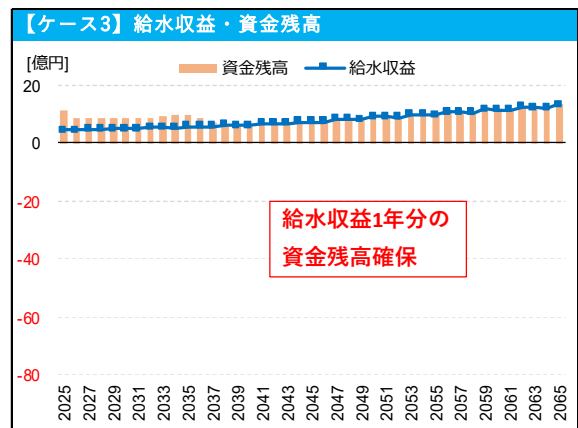
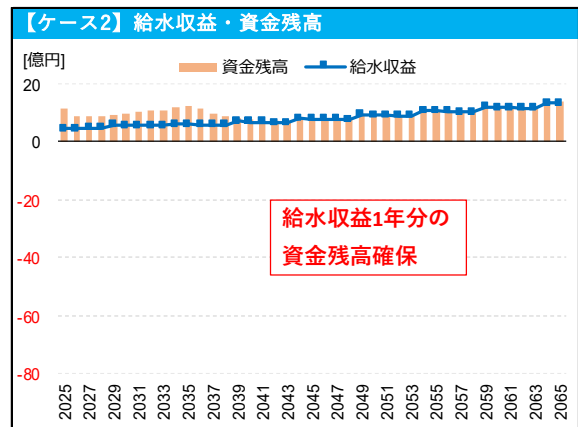
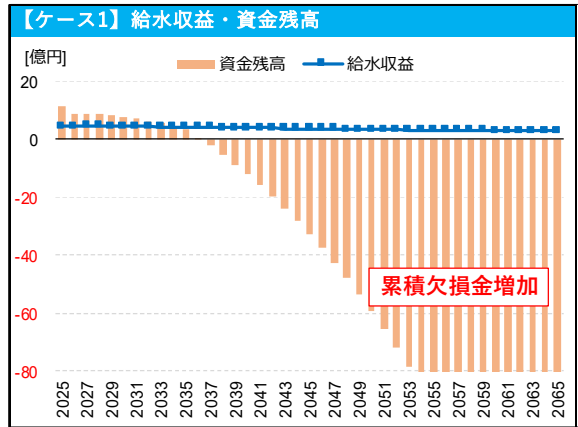
|      | ケース 2  | ケース 3  |
|------|--|--|
| 料金改定 | 2029 年 25%<br>2034 年 12%<br>2039 年 24%<br>以降 5 年毎に改定 | 2029 年 12%<br>2032 年 12%<br>2035 年 10%<br>以降 3 年毎に改定 |
| 供給単価 | 2065 年単価<br>997 円/m <sup>3</sup><br>469%(約 5 倍)      | 2065 年単価<br>1,004 円/m <sup>3</sup><br>472%(約 5 倍)    |



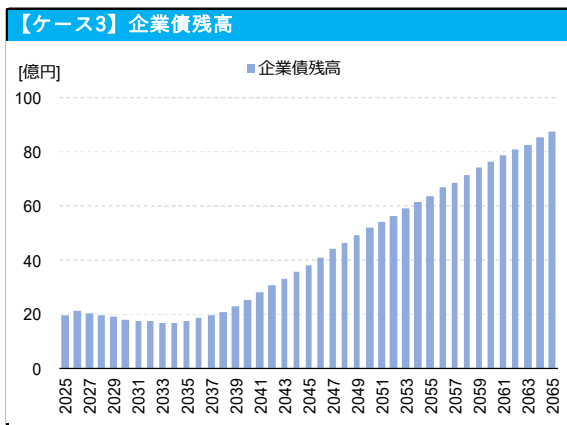
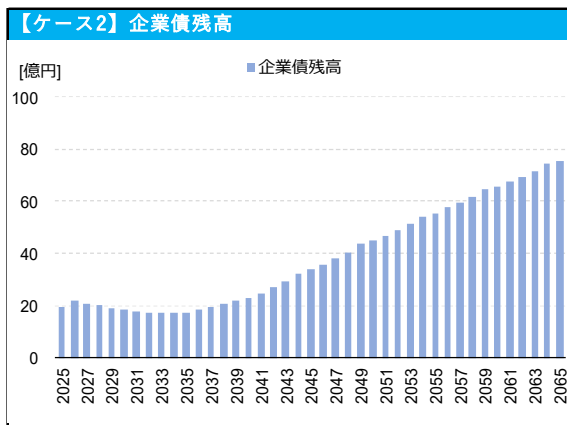
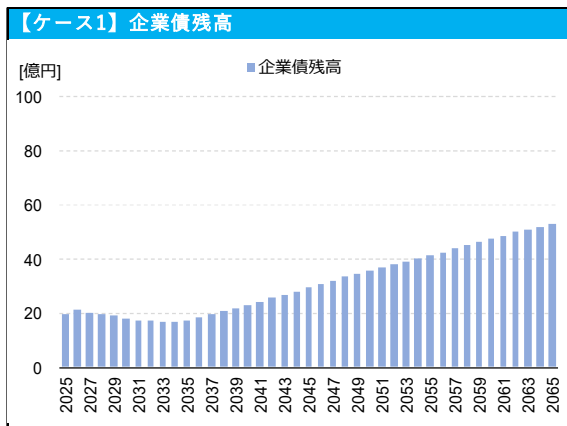
## ②資本的収支



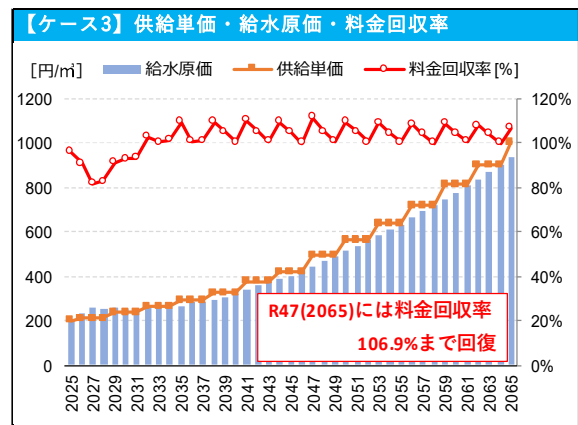
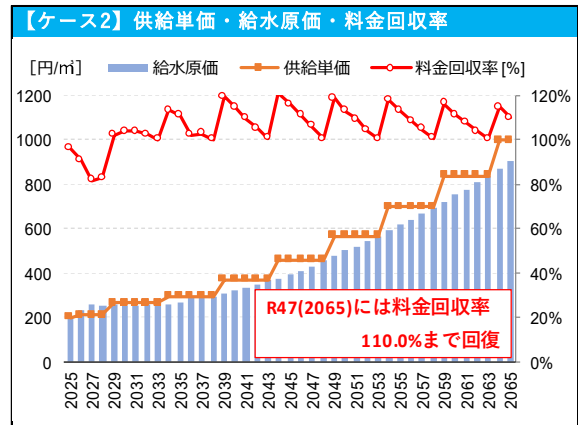
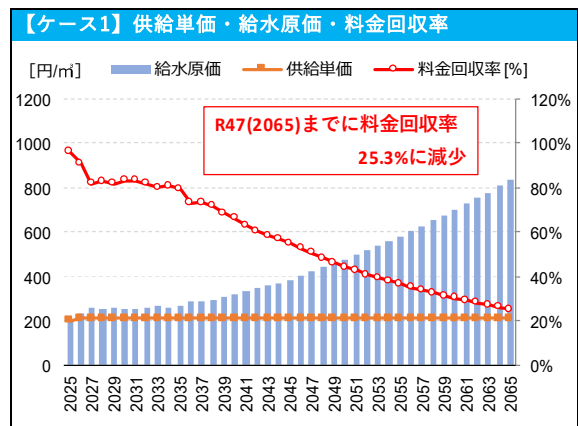
## ③給水収益・資金残高



#### ④企業債残高



#### ⑤供給単価・給水原価



### 5. 今後の取組みと課題

持続可能な水道事業に向けた、今後のアクションプランです。

**施設規模の適正化**：将来の水需要減少に合わせ、ダウンサイジングや再構築の検討を進める。

**データの精度向上**：固定資産台帳と施設台帳のさらなる整合、機能診断の実施。

**利用者への情報発信**：更新投資の必要性や財政状況について、具体的・視覚的な資料を用いて説明責任を果たす。

**財政の再検討**：一定の条件下での試算であるため、今後の社会情勢や投資抑制策の結果を踏まえ、適宜見直しを行う。